

学校安全総合支援事業(総合的な学習の時間)

- 1 実施日 令和7年7月11日(金) 13:20~15:00(5、6時間目)
- 2 参加者 小中学生、保護者、校区民の希望者、危機管理課職員、柏木工株式会社スタッフ
- 3 講師 防災士 神岡支部:2名 補助員:3名

4 ねらい

- ・市の『学校安全総合支援事業 ①地域と連携した生徒参画による「避難所設営』』を受け、山之村地区で発生し得る自然災害及び、避難所となる山之村小中学校体育館内での避難生活について学ぶことを通して防災意識を高め、自分事として自覚をもつ。また、災害発生時には、スタッフの一員として行動できるよう、避難所設営の知識・技術を身に付ける。

5 活動の流れ

児童生徒の活動		
<p>1 第1部：防災授業(15分×2)</p> <p>(1) 地域で起こりうる自然災害の種類について</p> <p>(2) その際の行動について</p> <p>(3) 避難場所での生活実態について</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に、防災倉庫の中身を確認し、会場にテント、ベッドを展示する。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時には、だれもがスタッフの一員として行動ができるように、設営や運営の知識と技能を学ぶことができるようにする。 ・ 避難バッグの中に入れておくべき物について、実物を見ながら理解する。 ・ 災害時には、「自分にできることを考えて、自分から行動することが大切」であることを理解する。
<p>2 第2部：避難所設営訓練</p> <p>(1) 防災用パネル組み立て</p> <p>(2) 防災倉庫内の用具の確認</p> <p>(3) 非常食の試食</p>		
<p>3 意見交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「本時の学習を通して学んだこと、感じたこと、新たな疑問」について参加者で7グループに分かれて意見交流する。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケガをしている人がいるかもしれない。その人たちのために、食事を運んであげることができると思う。 ・ お年寄りがたくさんいると思うから、少しでも元気になってもらえるよう声をかけてあげることができそう。 		

6 児童生徒の感想

- ・ 災害が起きた時に、自分にできることを考えて行動することが大切だと分かった。災害に備えるということでは、私は自分の住んでいる地域のハザードマップを見たことがなかったので、見てみたいと思った。

7 事後の取組

- ・ 授業後の事後指導として、家庭のハザードマップを確認した。災害はいつ起こるか分からないもの。まずは、家族で避難場所や連絡方法等の確認することの意識を高めた。日常生活や、教科横断的につなげて考えることを通して、学習した内容を防災についての更なる意識化を図った。